

## 事後評価シート

調査研究課題名	交通バリアフリーの地域に及ぼす効果に関する調査研究
担当者	研究調整官 佐野透、研究官 井上延亮、研究官 加藤隆重
①当初目標と目標達成度	<p>本調査研究は、鉄道駅等のバリアフリー化による「高齢者や子育て世代の公共交通の利用の促進」や「移動の増加を通じた地域の活性化」について、どのような効果をもたらすかを個別・具体的に明らかにし、駅を中心としたまちづくりに取り組む多くの地域や公共交通事業者等に対し、バリアフリー化の推進や関係者間での議論の活性化の一助となるための情報を提供するために取り組んできたものである。</p> <p>居住者等に対するアンケート調査から鉄道駅等のバリアフリー化による鉄道の利用促進効果、地域活性化効果等を確認することができ、当初の目的を達成することができた。</p>
②調査研究内容の妥当性	<p>調査対象者別、地域別にアンケート調査票を作成し、より具体的に対象設備を想定してもらおうとともに、アンケート調査票の配布・回収を地域団体経由で行うことにより、高い回収率を確保した。</p>
③調査研究の仕組みの妥当性	<p>アンケート調査前と調査後のデータ分析時に、学識経験者や地元自治体などからなる会議を実施し、様々な意見を聞き、的確な示唆を受けながら調査研究を進めることができた。</p>
④成果と活用	<p>研究成果を調査対象地域へフィードバックするとともに、当研究所のホームページ等で公表する。また、鉄道事業者や自治体に報告書を送付し、鉄道駅等のバリアフリー化に取り組む地域等に成果を有効に活用してもらおう。</p>
⑤その他	<p>新都市（平成22年7月号）（財団法人都市計画協会）に投稿  PRI Review 第35号（2010年冬）、第37号（2010年夏）に掲載  プレスリリースの予定（平成23年1月）</p>